

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷恵策 SJ

48

第十四幕

聖地巡礼

第1場

ヤッファの沖で上陸を待ちながら

1523年8月25日

登場人物：巡礼者 イニゴ

ディエゴ・マニェス：聖ヨハネ騎士団の司令官

スペイン人司祭

ピエール・フスリ

[語り] 1523年8月19日キプロス島を出帆した船は、イニゴたち21人のエルサレム巡礼者を乗せて南に向けて航海し、8月22日にはヤッファが視界に入ってきました。ところが、水先案内人（パイロット）が勘違いをし、船首を南に向けさせたため、ヤッファを行き過ぎてガザまで行ってしまい、風に逆らってゆっくりと戻らなければなりませんでした。
やっとのことでヤッファの港に近づいたとき……

イニゴ： おお、神に感謝！ ついに主イエスが歩かれた地に私たちも足を下ろすことができるのだ！！ ……

おや？なぜ船長は直ぐに接岸せずに、ここに錨を下ろすのだろうか？どなたか聞いてくださいませんか？

スペイン人司祭： 船長さん、なぜすぐに上陸しないのですか？

船長： この地域が、トルコ人の占領下にあることを忘れないでください。巡礼者を保護してもらうために、先ずラムレにいるフランシスコ会の修道士に巡礼団が着いたことを知らせ、トルコ人に連絡を取ってもらい、安全

を確保したうえで上陸が許可されるのです。

司祭：もう聖地に着いたのですから、一時、二時（いつとき、にとき）待たされたっていいですよ。神に感謝しましょう。イニゴさん、貴方は満面に笑みを浮かべて、本当に幸せそうですね！

イニゴ：はい、神への感謝で胸がいっぱいです。神は何も持たない私の信頼に応え、どんなに苦しい時にも私を慰め、励ましてくださいました。

司祭：イニゴさんは、船が逆風に悩まされ、反対方向に追い戻された時にも、水夫たちに命を脅かされた時にも、全く動じず、いつも平和な面持ちをしていましたね。

イニゴ：はい、キリストがともにいて守ってくださるので何も恐れることがないのです。

司祭：あなたはキリストの現存を現実を感じるのですか？

イニゴ：神父様だけに申しますが、この航海中にもとくにきけんやこんなんを感じる時人となられたキリストがお姿を現して大きな力と慰めをおあたえ下さるのです。

司祭：キリスト様が人の形で現れになるのですか？

イニゴ：そうではありません。何か金でできな丸いようなものが現れるのです。キプロス島を出発してから何度もそのお恵みをいただきました。

フスリ：皆さん、やっと上陸の用意ができたそうですよ。

マネス：それはよかった。みなさん、忘れ物がないように！

イニゴと司祭：Deo gratias!

第二場

エルサレムまで

[語り] 8月31日、待ちに待った聖地に上陸した巡礼者一行は、トルコ人の案内に従いロバに乗ってエルサレムに向かいました。わずか55kmの距離を4日もかけてゆっくり進まねばなりませんでしたが、ついにエルサレムまで約3kmという地点に到達しました。

ディエゴ・マニェス：皆さん一つ提案をさせてください。まもなく聖都エルサレムが見える地点に差し掛かります。ここでの準備をするために、これから先沈黙のうちに良心を究明し、祈りのうちにエルサレムに向かいたいと思いますが、いかがでしょう。

司祭：賛成です。是非そうしましょう。

イニゴ：良い提案をしてくださり ありがとうございます。